

現代インターネットは我々にとって非常に身近なものとなった。必要な情報を取捨選択し、瞬時に求めていける情報にありつくことができ。今までなかなかあが図書館や書店に本も本々、十分に検索をし、その本や記事の所在棚を探す、という苦労がはぶかれた。しかし、インターネットの台頭は新聞や雑誌「過去」の物としてしまふがうか。ニッポンは紙という媒体から映像やスクリーン越しで得るものになってしまふがうか。私は決してそうなるとは思えない。そして、そうなるまいよう強く願う。

先程述べた通り、インターネットの利点というものは、求めていける情報に遠回りをせずに取りつけるといふことだ。反対に雑誌や新聞では求めていける情報に最短の時間と手間ですりつけない訣だが、それがまた醍醐味であると思う。自分が思いきふなかっただけ考えに出会うことができたし、全く知れなかった事実には驚かされたし、と何かが自分の教養の幅

をえながら、どうなるかするのだ。これは現代の超高速・超効率化社会と逆行していけるか？ しないけれど、活字や印刷物は生活を豊にするには一役買っていることは間違いない。

この考えは、学生にとっては必需品であるとも言える、電子辞書にも求てはまる。確かに、電子辞書で時間短縮はし、私生活の英語勉強が進むことはある。しかし、紙の辞書ならではの質感や、その項目だけでなく、他の項目と同時に悦覧できる喜びは機械には当て現できない。

という訣で、私は熱烈な新聞・雑誌支持者である。もちろんインターネットコーナーでもあるが、この両方を使いこなしたいと思う。人生ではときに遠回りをして学ぶことがある、というが、情報収集でもまさにそうであるのではないか。この忙しい時代の中でゆとりを保つためには、時間がかかっても流れる新聞や雑誌に逃避したいと思う。